

別表 救急看護師のクリニカルラダー
日本看護協会看護師のクリニカルラダーと救急看護実践例

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	協働する力	【レベル毎の目標】	関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、他職種との連携ができる	ケアの受け手を取り巻く他職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、他職種の力を引き出し連携に活かす
		【JNA行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる <input type="checkbox"/> 助言を受けケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる <input type="checkbox"/> 連絡・報告・相談ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上でそれぞれ積極的に情報交換ができる <input type="checkbox"/> 関係者と密にコミュニケーションをとることができる <input type="checkbox"/> 看護の展開に必要な関係者を特定できる <input type="checkbox"/> 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手とケアについて意見交換ができる <input type="checkbox"/> 積極的に他職種に働きかけ、協力を求めることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手が置かれている状況（場）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる <input type="checkbox"/> 多職種間の連携が機能するように調整できる <input type="checkbox"/> 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況（場）の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自立的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる <input type="checkbox"/> 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
		【救急看護行動目標】	<input type="checkbox"/> 助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる <input type="checkbox"/> 情報を収集するに当たって急を要するものは何か考え共有することができる <input type="checkbox"/> 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる <input type="checkbox"/> 助言を受けケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる <input type="checkbox"/> 連絡・報告・相談ができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上でそれぞれ積極的に情報交換ができる <input type="checkbox"/> 看護の展開に必要な関係者を特定できる <input type="checkbox"/> ケアの受け手を取り巻く関係者と密にコミュニケーションをとることができる <input type="checkbox"/> 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	<input type="checkbox"/> 緊急性のあるケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手と実施するケアについて意見交換ができる <input type="checkbox"/> ケアの受け手のニーズの優先順位を考え多職種と共有することができる <input type="checkbox"/> 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	<input type="checkbox"/> ケアの受け手が置かれている状況（場・緊急性・重症度）を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に他職種と協力し合うことができる <input type="checkbox"/> 多職種間の連携が機能するように調整できる <input type="checkbox"/> 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	<input type="checkbox"/> 複雑な状況（場・緊急性・重症度）の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自立的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる <input type="checkbox"/> 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる <input type="checkbox"/> 目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
		<実践例>	<ul style="list-style-type: none"> ■助言を受けながら、ケアの受け手や周囲の人々から意図的に情報を得て関係者と共有する。たとえば、生活歴や家族内役割、アレルギー歴や緊急連絡先、治療歴、体内埋め込み型医療機器など ■得た情報を報告・連絡し、助言を受けながら関係者と共有する ■他の看護師の助言や協働から、効果的なケアや継続看護についてフィードバックを受ける ■ケアの受け手の状態や実践したことを他看護師に報告・連絡・相談をする。カンファレンスに参加し、助言を受けながら関係者と情報を共有する ■多職種（医師、看護師、専門・認定看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、ソーシャル・ワーカー、ケースワーカー、緩和ケアチーム、RSTチームなど）の役割を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ■積極的に発言することで患者等のケアの受け手や周囲の人々の思いや意向などの必要な情報を関係者と共有する。また、情報交換により看護の方針を確認する ■ケアの受け手や周囲の人々に関わる多職種の役割や分担と連携の必要性を理解する。また、助言を受けながら体験したことを活用し、ケアの受け手や周囲の人々への介入に必要な関係者を特定する 	<ul style="list-style-type: none"> ■患者の個別的なニーズに対応するために、必要な職種がわかり関係者に支援や協力を求める。自ら職種間調整を行い、タイミングを逸さずにカンファレンスを開催する。カンファレンスで得た結果を共有する ■緊急時・急変時には、多職種とコミュニケーションを図り、報告・連絡・相談を率先して行う。チーム内に役割分担と調整、明確な目標を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ■ケアの受け手や周囲の人々の状況に応じて、効果的な医療が提供されるようにチームメンバーを調整する ■ケアの受け手や周囲の人々への介入の目標が明確になるためのカンファレンスを意図的に開催する ■カンファレンスでは職種の役割が効果的に発揮できるように相互理解を示して調整し、ファシリテーションを行う ■カンファレンスで決定した介入やプロセスの評価を行い、修正や追加を行う。必要時協働や調整を働きかける ■緊急時・急変時には、ケアの受け手や周囲の人々の状況に予測性を持ちながら対応し、職種間調整を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ■複雑な問題解決に向け連携する際にチーム全体を俯瞰し、各職種が役割を効果的に発揮できるよう働きかける ■関係者、多職種間連携が効果的に機能するよう、中心的役割を担う ■各職種の役割を明確化したうえで、チームの目標を共有し、結束して関わるような連携を促進する